

まちづくり懇談会特別企画 若者・子育て世代編
～文教大学梅村仁ゼミ生との懇談～の概要について

1. 懇談会のテーマ

- ・自分が住みたい町とは
～若者にとって魅力のある町～
- ・まちづくりのために地域でできること
～町民と町が連携してできること～

2. 日時、会場

平成29年10月25日（水）午前11時～12時30分
文教大学湘南キャンパス4301教室

3. 参加人数： 計 27 人

4. 町出席者

木村町長、常盤副町長、中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、米山主幹
協働文化推進課協働担当職員

5. まちづくり懇談会特別企画 若者・子育て世代編

～文教大学梅村仁ゼミ生との懇談～についての概要一覧表<P2～P3>

6. テーマ別の詳細について

1. テーマ1…<P4～P10中段>
2. テーマ2…<P10中段～P14下段>
3. その他…<P14下段～P16>

まちづくり懇談会特別企画 若者・子育て世代編 ～文教大学梅村仁ゼミ生との懇談～の概要一覧表

テーマ	参加者の意見	町長・副町長・町民部長の回答
I. 自分が住みたい町とは～若者にとって魅力のある町～		
	・ふるさと納税を通じた町のPRについて	ふるさと納税を通じて、寒川の情報をホームページあるいは色々なツールに乗せて、発信をしていきたいと思えます。 【財政課 財政担当】 ふるさと納税をひとつの情報展開・発信ツールとして、町内企業や地域の皆様にもご協力をいただき、魅力ある返礼品を拡充させるなど、より多くの皆様に知ってもらい、選んでいただける町となるよう、制度の充実を図っていききたい考えです。
	・待機児童問題について	今、待機児童としてカウントされているのは10名程度の人数です。また、施設の規模の問題もあり、受け入れが希望どおりにはいかないということも一つの課題になっています。ただ、現在町内にある幼稚園が、保育園と幼稚園の機能をそれぞれ持ち合わせた認定こども園に移行するという部分では、子育て環境としては、施設は非常に民間の力が今出てきています。
	・住んでから分かるよさのPRについて	—
	・住んだことがない町に住むことについて	もともと住んでいる方の繋がりも深いので、新しい人が入りにくいという意見もありますが、新しく入ってきた人が地域に入りたがらないこともあります。前から住んでいる方が新しい方を受け入れる、そういう行動にもっと移ってほしいと思っています。
	・地元愛を持ってもらうことについて	ゲームセンターなどの若者が利用するアミューズメント施設は確かに少ないと思えますが、町並みが意外と整って静かだということが一つの特徴かもしれません。
	・交通の利便性について	最終電車が早いことを考えると不便さは感じると思えます。相模線は単線なので、様々な促進会議を持ち、早く複線化あるいは島駅にしてほしいという要望はしています。また、移動手段の利便性の向上は、地域の活性化には非常に重要な要素だと思っていますので、引き続き、積極的に取り組んでいきたいと思えます。
	・夜の活気がある町について	—
	・会社見学の観光への活用について	職場体験は寒川でも小学生、中学生において実施しています。特に、キリンビバレッジの見学コースは、県内の各小中学校からもバスで見学に来ています。地元採用もやっていますので、企業さんも雇用の面でPRをしてほしいと思っています。 【産業振興課 観光担当】 各企業の経営者は自社をPRすることの大切さを理解されているものの、その方法などで苦慮されている状況があります。町としては、そういった企業に対し企業の強みや魅力を発信出来るような場所や方法を提供するなどして、町内外の方に興味を持っていただくことから始めたいと考えております。
II. まちづくりのために地域でできること～町民と町が連携してできること～		
	・町のPR方法について	—

・自治会の入会等について	ごみ処理の問題や、地域の自主防災訓練などの情報も、自治会に入っていないと情報が入ってきません。また、小規模な公園の管理を、地域のボランティアでお願いできないかという提案をしていますが、なかなか受け入れてもらえる地域が少ないです。
・ごみの減量化について	木の箱の中に土が入っており、穴を掘って生ごみを入れておくと、数日で消える「キエーロ」があり、町で斡旋販売しています。
・自治会について	—
・若者のボランティア等の参加機会について	—
・安心して子育てできる政策について	<p>町には、放課後、親が働いている場合は、親が帰ってくるまでの間、小学生が安心して過ごせるようにと児童クラブがあります。</p> <p>町としてできることは子どもの受け入れです。次の子ができて、まだ小さく上の子を見られない場合は、子育ての保育スペースの確保やファミリー・サポート・センターという所もありますが、そこでは一時預かり的なこともやってくれる部分もあります。寒川だからできる細かい保育環境、そういったものも今つくってやっているところです。</p> <p>【子育て支援課 子ども家庭担当】 子育てに不安や悩みを抱える母親達に対し、身近で気軽に利用できる支援拠点として子育て支援センターがあり、保育所、幼稚園等の施設や地域の子育て情報を集約し、利用相談に対し情報提供を行う利用者支援事業を行っております。ファミリー・サポート・センター事業では「育児の支援を受けたい人」と「育児の支援を行いたい人」からなる会員組織で会員同士が地域で進める相互援助活動の支援を図っております。平成29年度からは、小児医療費助成事業について中学3年生（1歳以上所得制限あり）まで対象としております。また、子育て支援課内に子育て世代包括センターを設置し、妊娠届出時から出産・子育ての時期も含め、早期に相談対応ができる体制をとっております。</p> <p>【保育・青少年課 保育担当】 平成29年10月には寒川町初の家庭的保育事業が開所されました。また平成30年4月には認定こども園が開園予定です。その後、こちらも寒川町初の小規模保育事業が開所予定です。</p>
・町長への手紙について	受け付けないものは一切なく、全て受理しています。回答あたっては、担当課に全部1回戻し、担当課の意見をつけて、最終的に私が確認して、お答えを相手に渡しています。
Ⅲ. その他	
・寒川のイメージについて	寒川は寒川神社のある町だと認識されています。農地や田畑の自然が多く、町全体が、ある意味公園的なイメージも私は持っているので、公園のイメージのまちづくりをしたいと思っています。また、寒川に2カ所のインターチェンジができたことや事業所が非常に多い関係で、交流人口が今、非常に増えています。新しいものをつくるのではなくて、文化や歴史など埋もれかかっているものを、プロモーションしたいと思います。

1. 自分が住みたい町とは ～若者にとって魅力のある町～

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
	<p>(司会) 自分が住みたい町、若者にとって魅力のある町について、若者という全体的な話でもいいですし、私がというような内容でも、もちろん構いませんので、ご意見いただければと思います。</p>	
<p>【ふるさと納税を通じた町のPRについて】<u>公助</u> 全体が公園のようにとおっしゃっていましたが、そういった環境づくりをしていくのが、これから寒川町の魅力の一つになるのかと思っています。 また、花の町というのも、インターの看板を見たことがあります、花と自然は関連づけやすいので、いいのかなと思います。 しかし、私は、バイト先が寒川町なので、週に2回か3回は必ず寒川町に行きますが、その時に花の町と言われていても、花を実感することがないなと思います。 また、他に寒川町の特産や特徴は何だろうと思ったときに、寒川神社しか自分も出てこないなと思いつつ、外部への今あるもののPRが弱いのかなと感じています。そして、ふるさと納税に注目してサイトを見させていただいた時に初めて、ランポリンの施設等、今まで知らなかったものを発見することができた。そういった面から、ふるさと納税のPRを強化して関連づけて、寒川のある魅力をPRするという形にしていくのが、一つ手ではないのかなと思いました。例えば2015年にふるさと納税の1位になった都城市の特設サイトを見たことがあるのですが、非常にPRがされていたので、そういったところが必要なのではないかなと思ったのですが、どういふふうにお考えでしょうか。</p>	<p>ふるさと納税については、一般的には食べるものや身につけるものに関心度が非常に高く、今まで上位にあるのは大体、お肉やお酒などの食品が多いです。その中で寒川は花を出していますが、問題は、花は季節感があるので、年間を通してできません。 ただ、やはり花のある生活というのは、非常に潤いも出てきます。部屋の中に花があるのとないのでは全然、人間の感情も違ってくるので、そういったものをもっとPRしたいですが、それだけでは弱いです。やはり、もっと身近なもの。新しくつくるのではなく、「あっ、こういうものもあるんだ」といったものの情報の見える化を、これからしていかななくてはいけないなと思っています。 皆さん、オーケストアさんをご存じだと思いますが、日産工機の北側に約10万平米、広さにすると3万坪という非常に広大な面積で物流の食品倉庫が建設中となっています。来年に動き出すと、県内のオーケストアさんに全部、配送する作業スペースができ、そこで多くの食品も取り扱われます。実はオーケストアさんへ、寒川のふるさと納税の返戻品に加えさせていただきたいという相談に行き、一応、了解をいただきましたので、今、その品物の選定、選考に当たっている段階です。 そういう食品の基地ができることによって寒川の農業も、個人が1,000平米や2,000平米という小規模な農地ではなく、農業の集約を図ることによって生産性を高めるといったことも、これから新しい農業としてあるのかもしれない。 もともと寒川は、農村地域だったが、昭和30年代後半から40年代に企業誘致を行い、相模川の対岸にある平塚の飛び地が寒川側にあったため、その土地を購入し、工業団地として整備したため、その当時は寒川も財政再建団体に落ちました。 ただ、すぐに企業が進出してきて、昔の日本鉱業であるJX金属やキリン、パスコ、河西、旭ファイバー等の様々な企業も操業して、まさに50年を超える企業が着々と事業展開しています。海外転出もありますが、かなりそういった部分では、生産性を高めていくという状況もあり、寒川町は、町内の企業に勤める方も非常に多</p>	<p>【財政課 財政担当】 ふるさと納税には3つの大きな意義があります。 第一に、納税者が寄附先を選択する制度であり、選択するからこそ、その使われ方を考えるきっかけとなる制度であること。それは、税に対する意識が高まり、納税の大切さを自分ごととしてとらえる貴重な機会とすること。 第二に、生まれ故郷はもちろん、お世話になった地域に、これから応援したい地域へも力になれる制度であること。それは、人を育て、自然を守る、地方の環境を育む支援になります。 第三に、自治体が国民に取組をアピールすることでふるさと納税を呼びかけ、自治体間の競争が進むこと。それは、選んでもらうに相応しい、地域のあり方をあらためて考えるきっかけへとつなげるものです。これらの意義を踏まえ、町では、町の特産品である花をはじめ、町内で製造や・販売している品物を返礼品に設定し、平成27年10月よりふるさと納税を開始したところです。近年は、ふるさと納税制度自体の認知度向上から、利用者数も増加傾向にありますので、制度を通じて全国の皆様に寒川町を知ってもらうためのきっかけ作りや知名度の向上につなげていきたい考えです。 今後もふるさと納税をひとつの情報展開・発信ツールとして、町内企業や地域の皆様にもご協力をいただき、魅力ある返礼品を拡充させるなど、より多くの皆様に知ってもらい、選んでいただける町となるよう、制度の充実を図っていきたい考えです。</p>

いですが、町外から町内企業に勤めている方が多い。なので、昼、夜の人口は、そんなに変わらないので、就業の場が町内にあるということも、一つの強みになります。なので、そういった意味で生活のしやすさ。職住近接ではないですが、やはりそういう部分も一つのメリットとして、これからは出していかなくてはなりません。

住んでよし、働いてよし、環境がよしという部分で、そういう条件が今まで当たり前のようにはありますが、それを見えるような形で情報展開、発信をしたいと思っております。

この地方創生も実質的には平成28年度から動き出しているようなものですので、まだまだこれから展開をしていかなくてはいけないと思っています。その中でも、やはり、ふるさと納税を通じて寒川の情報をホームページあるいは色々なツールに乗せて発信をしていきたいと思っています。

【待機児童問題について】公助

基本目標の3つ目に、「子育て世代が安心して子どもを産み育てやすい環境をつくる」とあったと思いますが、今、寒川では待機児童問題などありますか。

待機児童を解消することはなかなか難しいですが、今、待機児童としてカウントされているのは10名程度の人数です。

また、行きたい保育園に行けないということも、一つの課題になっています。例えば兄弟がいて、お兄ちゃんはA保育園だが、定員の関係で、弟はB保育園に行かなくてはいけないなどといった課題です。兄弟であれば同じ保育園に当然ながら通いたいですが、施設の規模の問題もあり、受け入れがなかなか、希望どおりにはいかない部分もあります。

ただ、現在町内に保育園・幼稚園等が計8園あります。そのうちの幼稚園が、保育園と幼稚園の機能をそれぞれ持ち合わせた認定こども園に移行します。そういう部分では、子育て環境としては、施設は非常に民間の力が今出てきています。

保育園も従来は町がつくって民間に委託していましたが、今は全部民間に譲渡し保育園は民間運営をしています。

また、幼稚園も当然ながら個人あるいは法人経営もありますが、やはり行政が絡まないでも民間がそれぞれの力を出して今、施設整備を図っているので、非常に保育に関しては充実していると思います。

ただ、人口が横ばいなので、まだよいですが、いずれは減少傾向に入るとなると、やはり施設運営の点からも、そう大きくは施設の数は増えないと思います。その中で、企業が多いという意味で、事業所内保育という類型もあるので、様々な方法で保育環境の充実を図っていきます。

保育園、幼稚園、あるいは認定こども園、それ以外に家庭的な雰囲気のもとで少人数で保育する家庭的保育事業があります。国も、子ども・子育て

	<p>制度というものを新しく打ち出して、今回の選挙の中でも、保育あるいは教育の無償化等、色々出ていますが、今までは、子どもに対する投資は非常に市町村頼みという部分が多かったのですが、ようやく子どもに対する国策として国も動き出そうという話があるので、どう新しい政権の中で動きが出るかまだまだ予断は許さないですが、方向的には、子育て環境の充実というものは、地方だけではなくて国も共に連携してやっていこうということのようです。寒川は近隣の自治体に比べて、そういう部分では待機児童は非常に少ないという部分もあります。</p>	
<p>【住んでから分かるよさのPRについて】 【公助】 部活の後輩が、学校から近いという理由で今寒川町に住んでいますが、最近、寒川町はどうかと聞いてみたところ、とても暮らしやすいし、生活するには一切不便がなく、空が広いので地元似ていて、将来的にも住んでもいいかもしれないと言っていたので、住んでからよさが分かる町だなというイメージがあります。なので、住む前からもよさがわかるようなもの、プラスして先程お話のあった花のある町だったり、寒川神社でイベントをやったりと、そこら辺を押し出していけば移住促進に繋がるのかなと自分も感じました。</p>		
<p>【住んだことがない町に住むことについて】 【共助】 先程、待機児童の問題などがあると言われていましたが、若い人が転入、移住するためには、やはり待機児童などの色々な問題を解決していかないと、住んだこともない町に住むということは、周りの環境も全く違く、知らない土地なので不安だと思います。私は、田舎出身ですが、町は、みんな隣の人が知り合いみたいな感じなので、そこに知らない人が入っていくというのは結構大変かなと思うので、そういうところも少し考えていただけたらうれしいかなと思います。</p>		
<p>【地元愛を持ってもらうことについて】 【共助】 町の色を出すのは定住者だと思いますが、移住者を促進する前に、まず今住んでいる人に寒川愛を感じてもらいたいなと思っています。私は、小田原市に住んでいるのですが、車で10分位行ったところに3カ所、若者が遊べるイオンのような複合施設があり、何より将来も小田原に住んでみたいと思っています。その理由としては、1年で一番、地域が盛り上がるお祭りがあるのですが、住民の人に、そういう自治会単位でのイベントに力を入れてもらったり、地元愛を持ってもらったりするというのも、最終的には移住者促進に繋</p>		

<p>がると思いました。</p>	<p>(司会) これから自分が住むところで、どういったところを重要視して考えるかというご意見を出していただけたらと思います。</p>	
<p>【交通の利便性について】 公助 寒川は他のところから比べると、やはり行きづらいところがあると感じます。車などをお持ちの方は行けると思いますが、文教大学生などは実際に移動手段がなかなかありません。大学生などの目線からすると、夜中まで遊んで帰ることもあると思いますが、寒川町に住んでいる友達は終電が結構早く、なかなか遊びづらいということは感じているので、交通の利便性の整備がもう少しされれば、大学生にはいいのかなと思います。</p>		
<p>夜に、寒川の子だけ先に帰ってしまうことが結構あったので、気になったことがありました。</p>		
<p>【夜の活気がある町について】 公助 先程の意見と少し関連しますが、夜にもう少し活気を持てたらいいのかなと思います。先程町長さんが、町全体が公園のイメージのまちづくりと言われていましたが、公園におそらく夜は行かないので、昼間は公園で、夜はまた別の若者が集まるような感じにするとインパクトがあり、いいのではないかなと思います。そういった明るいときと暗いときの二面性が持てる町だと、おそらく色々な世代が行きやすいかなというように思いました。</p>		
<p>どのぐらいあるかわからないですが、24時間営業の居酒屋などが色々あると、おそらく、世代や男女問わず居られる場所かなと思います。</p>		
<p>【会社見学の観光への活用について】 共助・公助 寒川は工業地と聞いていたのですが、それを知られていないと思うので、学習や観光の場に使いえないかなと思っています。例えば小・中学生の頃に、職場体験に行きましたが、そういう場を設ければ、将来、小さい頃にそういう経験があった、だから働きたいと思うのかなと思います。 また、観光の面に繋げようとするなら、例えばカップヌードルミュージアムのように、観光等の面を持ち合わせている企業は何個かあると思うので、観光地として強めて、他の県の方も呼べるようにしたら、もう少し人も集まっているのではないかなと思います。</p>	<p>まず、アピール不足なのでもっと魅力を知ってもらいます。やはり手段なので、マーケティングあるいはタウンセールスの部分で、町をイメージしたデザインやロゴを検討しています。非常にシンプルで、「あっ、寒川というのはこういうイメージなんだ」というもので、今日お見せできないのが残念ですが、年内には、いずれお見せして、またご意見もいただこうかと思っています。 皆さんは意外と知らないと思いますが、寒川町には高座郡がつきますが、「高座郡」というのは非常に由緒高いのです。神奈川県でも中央の高座郡ですが、相模原から相模線で南下してきて、茅ヶ崎、藤沢、鎌倉の一部も含めたところが旧の高座郡なので、非常に広大なところ。他の地域は、みんな市になってしまったので、寒川だけが高座郡と名乗っていますが、そういう昔からの由緒ある名前はある意味、町民としても田舎というイメージで</p>	<p>【産業振興課 観光担当】 町内の企業を多くの方に知っていただくためには、イベントを開催するなどして自社をPRしていくことが必要です。現在、町内企業が実施する観光や会社見学につながるイベントとしては、キリンビバレッジが行う工場の見学コース設定、JX金属や日産工機などが行う夏祭り、工場の開放デーなどがあり、町内外から多くの方の参加があります。 寒川は工業の地と言われておりますが、皆さんの身近にあるような製品を作っている企業は少なく、町内の企業を多くの方に知っていただくためには、町としても町内でどんな製品が作られているのかを把握する必要があります。現在、企業訪問などを通じてその把握に努めているところですが、各企業の経営者は自社をPRすることの大切さを理解されているものの、その方法などで苦慮されている状況があります。</p>

はなく、逆にそれをプラスに転じなくてはいけないのかと思っています。

やはり町というのは、もともと住んでいる方の繋がりも深いので、新しい人が入りにくいという意見もありますが、実際は逆に、新しく入ってきた人が地域に入りたがらないことも結構あります。もともと私は寒川生まれで、昔から地域の繋がりには弱くはないと思いますが、新しい人を受け入れないといったような閉鎖的な地域ではありません。

ただ、やはり今は社会的に、自治会に加入しない人が増えている。要は、わずらわしかったり、何かの役が回ってきたりするので、変に地域との関わりを持たずに、自分の家さえ自由であればとなる。そういう考え方の人が少なからずいらっしゃるということは、やはり昔から住んでいる自分たちからすると、それは少し異質だなと思っています。やはり知らないところだからこそ、前からいる方との連携、要は繋がりや絆的なものをもっと深めてもらいたいなと思っているので、そういったものを昔から住んでいる人たちが、もっとオープンにしないでほしいと思います。

これは家の構造にもあり、昔は、隣との境はなかったが、今はフェンスや塀などで、必ず自分の家の区画をはっきり外形的にも明示してしまっています。昔は子どもが隣の家に行くには前の道路は通らず裏の私有地を通り、何軒先にも行けましたが、今は1回表へ出て正面からしか入れません。そういうつくりも、地域の繋がりが軽薄になってしまう一つの外形的な要因があるのかなと私は思っています。やはり、自己の所有地なので、きれいにしたい、あるいは見知らぬ人を入れないということだと思います。昔は見知らぬ人がいなかったから、オープンでもよかったが、最近は新しい人が増えてくると、ある意味、昔から住んでいる方は警戒する部分があります。

それは、こういったまちづくり懇談会を通して、もっと町の生活形態そのものも少し変えていかななくてはいけないのかなという思いがします。

ただ、やはり町は、今までは戦争を知っている年代の方の発言力がかなりあって、色々な役職も、そういう方が多かった時代もありましたが、年代が少し下がってきていることによって、意見も変わってきている。若い人は人口的には、そんなに極端に増えてはいませんが、新しい人が本当に増えているので、ぜひ地域の繋がり、前から住んでいる方が新しい方を受け入れる、そういう行動にもっと移ってもらいたいなと私は思っています。

また、ゲームセンターなどの若者が利用するアミューズメント施設は、ボウリング場とその一角に少しのゲームコーナーがあるが、確かに少ないです。なので、寒川は若い人が集まれる

町としては、まずはそういった企業に対し企業の強みや魅力を発信出来るような場所や方法を提供するなどして、町内外の方に興味を持っていただくことから始めてみたいと考えております。

場は確かに少ないとは思いますが、だから町並みが意外と整って静かだということはその辺にあり、それが一つの特徴かもしれません。

さらに、交通手段の話が出ましたが、確かに最終電車のことを考えると不便さというのは感じると思います。

また、相模線は単線なので、様々な促進会議を持ち、早く複線化あるいは片側のところを両側にとまれる島駅にしてほしいという要望はしています。JRは、利用客が多くなったら複線にするという考えを持っていますが、地元からすると、複線化にならないから利用客が増えないとなるので、やはり考え方の違いがあります。そういった点では、私鉄の相鉄線や小田急線では、沿線開発して利用客を自ら呼び込むために駅をつくるという部分で、計画性が非常にあります。

東海道新幹線についても、もとはJRなので、今JR東海さんはリニア中央新幹線の整備に全力投球しているので、新幹線の新駅をつくるということは、リニアが実際に走り、乗客がどう移って、今の東海道新幹線にダイヤに余裕が生まれればという、かなり先の見込みです。その裏づけがなければ具体的に動きません。ただし、行動は毎年繰り返していますが、当然その行動には地元や神奈川県内の国会議員もいらっしゃるので、在来線の相模線も、もっと連携を密にして、これから取り組んでいきたいと思っています。

また、移動手段の利便性の向上というのは、地域の活性化には非常に重要な要素だと思っていますので、引き続き、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

それからお祭りの参加というお話もありましたが、この辺のお祭りという浜降祭がよくテレビでも放映されますので一番皆さんご存じかと思います。寒川でも駅前公園で神輿まつりもやっていますが、それ以外に各地域でのお祭り、昔の村祭りみたいな小規模なものは、まだ綿々と繋がっています。

町内は、意外と神社が多く、その神社を中心とした地域のまとまりが非常にあり、そういう中では非常に世代交流ができます。

ただ、そこに参画していない人は、その状況がわかりません。なので、地域の古い伝統の祭り、あるいは、そういう神社に関連する行事に参加すると、地域の多くの先輩たちとも交流ができるし、地域を知る機会にもなります。皆さんも、いずれは地域の活動もされると思いますが、そういう入り方はとても入りやすいので、参考にしていただければなと思っています。

また、職場体験は寒川でも小学生、中学生において実施しています。特に、キンビバレッジの見学コースは体験だけでなく、自分でペットボトルをデザインしたものをつくれるので、

	<p>寒川だけではなく県内の各小中学校からも、バスで見学に来ています。そのほか、寒川は自動車関連が多いが、職種が一つに偏ってはなく、鉄鋼業あるいは食品関係、飲料関係など、幅広い分野の事業所があるため、地元の小中学生は、よく社会科の授業の一環として見に行かれています。これはむしろ町の職員が、町内の事業所がどんな業務を担っているのかというのをもっと知ってもらわないといけない一つの課題にもなっているので、研修という名でやりたいと思っています。ぜひ文教大の皆さんも寒川町内の企業は見学を自由に受け入れてくれますし、企業さんとの懇談をする場でも、もっと地元から会社へ来てほしいというようなことは結構言われています。一般的には大体、東京、横浜に就職し、結果的に異動で寒川の工場へ来る、事業所へ来るというようなパターンもあるようです。地元採用も当然ながらやっていますので、これは企業さんも少し雇用の面でPRをしてほしいなと思っています。</p>	
--	---	--

2. まちづくりのために地域でできること ～町民と町が連携してできること～

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
	<p>(司会) テーマを次の「まちづくりのために地域にできること」へ移っていきたいと思います。</p>	
<p>【町のPR方法について】 公助 寒川町自体をどんどんPRしていきたいということでしたが、そのPR方法がどういう感じなのかなと少し気になります。茅ヶ崎テレビをたまに見ますが、毎日は見られないので、茅ヶ崎が実際何をやっているのか、茅ヶ崎市に住んでいてもあまりよくわからないような状況になっているので、町民の方と一緒に連携して何かやっていくのか、それとも行政が推進していくのかというのを教えていただきたいと思います。</p>		
<p>【自治会の入会等について】 共助 私は今、茅ヶ崎に住んでいます、寒川に移り住んだときに、もっとよりよい町になるために何をするかと思うと、先ほど地域に入りたがらないという話をお伺いしましたが、地域に入らない、自治会に入りたくないというのには何かしら理由があるはずだと思います。なので、ひとり暮らしの方は自治会に入ったことのない人が多いと思いますので、新しく越していきたくてもまだ怖いという人のために、そもそも自治会ってどういうものなのか、ごみ捨てやお祭りの当番などを知るためのイベントや懇親会などがあればいいなと思います。</p>	<p>寒川で今一番大きな課題というのは、やはりごみ処理の関係です。寒川のごみは茅ヶ崎の環境事業センターで焼却してもらい、搬入した量に応じた焼却灰は埋め立て処分をするため、千葉県へ運んでいます。町民の方に何を一番お願いするかというと、やはりごみの減量化と分別の徹底です。 ただ、資源ごみは有償で処理されているのでいいですが、問題は焼却場へ持っていく可燃ごみです。 寒川は、食品を食べ切ったり、余計なものを買わなかったりと、ごみを減らしてもらうために、一部有料の指定収集袋にしています。まだまだ改善すべき点はありますが、特に可燃ごみは</p>	

ごみ収集所のネットはおそらく地域の人が出してくれていると思いますが、私たちは大学生で、生活習慣がサラリーマンの方などと全然違うので、自治会に入るとごみ出しの当番などが回ってくるのが嫌だなという気持ちがあります。

非常に水分が多い。茅ヶ崎の焼却場に持って行く際にカウントされるのは重さで、大体6割は水分と言われています。その水分を搾り切ることによってかなり減量されたため、減量化を町は進めています。もっと減量してくださいと言いつつも、ではどうやれば減量になるかという具体的なものが見えない。そのため、今、担当職員は水分を搾り切ったごみと水分を搾らずに出した場合のごみの現物を見てもらい、比較をさせて理解してもらうように啓発していますが、今はターゲットが中学生です。小中学生に出前講座という形でカリキュラムをとってもらいますが、その中で子どもたちに、家庭のごみの出し方を教えることで、子どもから言われれば親にも、非常に伝わっていく。我々が家庭の方に言っても、なかなかそんなものやっていますよという部分になってしまうので、色々な方法、作戦を立てながら今取り組んでいます。

ごみの最終的な処分場は、もう満杯の状況になっているので、いずれは新しい処分先を決めないといけないのですが、そのためには経費がかかります。なので、あなたが出したごみで、どれだけの経費がかかり、それは皆さんの負担になっていることを知ってもらい、ごみの分別は一人ひとりが守っていく。

その次にやるのは、やはり防災の安全面。先日、台風が来ましたが、自助、共助、公助という言葉はありますが、公助にあたる行政ができるものは、土のう袋を用意して提供や情報発信などといったことしかできません。実際の防災、減災というのは、基本的には自助と、地域の繋がり。地域では自主防災訓練というものをやっていると思いますが、

そういうことが一つの地域参画、地域への協力度となる。自主防災訓練について通知が来たら、どんなことやっているのか気軽に見に行くでもいいと思いますが、自治会に入っていないと通知も来ません。

そうですね。掲示板とかでは見ますが、自治会の人しか知らない場所に掲示板があったりするので、目につくところがないかもしれません。

情報が入ってきません。おそらく、ホームページには出ていると思いますが、そこまで皆さん見られません。

それから、町で今、地域とともに相模川の美化キャンペーンという協働作業を実施しており、地域の自治会や企業、各中学校の皆さんと一緒にごみを拾いをしています。

また、まちぐるみ美化運動は、家の前の道路部分の除草などを地域ぐるみで実施しています。

また、地域の協働作業について今後は町内の大きな公園は別にして、小規模な公園の管理を、必要経費は町が対応しそれ以外の作業等について、地域のボランティアでお願いできないかという提案をして今、話を広げていますが、なかなか受け入れてもらえる地域が少ないです。特定の県営住宅のよ

	<p>うな集合住宅のところは、自治会での区域内の清掃は非常に徹底されています。やはり個人で持ち家に住んでいる方は、なかなかまとまりが弱いので、ひとり住まいの方が多ですが、賃貸住宅には例えば組合みたいなものはありませんか。</p>	
	<p>(司会) あまりないと思います。区分所有の場合はありますが。</p>	
<p>【ごみの減量化について】 共助・公助</p>	<p>(司会) 堆肥化する箱（キューロ）があり、3,000円で町が斡旋販売しています。</p>	
<p>先程、ごみの減量化についてお話しがありましたが、私は群馬県出身で、地元の自治体を受験した際の討論のテーマが、ごみの減量化でした。私たちのチームでの最終的な結論は、学校教育の場で、ごみの分別や減量化の大切さを教えるのが一番だということになりました。先程、小中学生をターゲットにとおっしゃっていたので、実際にそういうアイデアもあるんだなと思いました。</p> <p>また、ごみは重さでカウントしていることを私は初めて知ったのですが、例えばリンゴの皮をむいて、それを乾燥させて捨てるのは難しいかなとは思っているので、そういう機械はありますか。</p>	<p>コンポストは、プラスチックでできている容器の中にごみを入れるのですが、堆肥化はできても残ってしまいます。</p> <p>また、別にキューロという木の箱の中に土が入っているものがあり、適当に穴を掘って、生ごみを入れておくと、大体3日で消えますので、私は実践しています。町では、それは商品として販売しています。</p>	
<p>それを（購入する以外に）もし作れるのであれば、学校の教育の場で作ってみようと思えば、家庭でも使えるかもしれません。家庭に使ってもらいたいのであれば、補助金をもし少しでも出すよと言ったら、使う家庭も増えるのではないかと思います。</p>		
<p>【自治会について】 共助・公助</p> <p>私は今、茅ヶ崎市に住んでいて、2つの地区の自治会の市民集會に参加したのですが、その際にやはり圧倒的に、担い手である若者の参加率が低いと感じました。前々から茅ヶ崎市に住んでいる人は、非常に熱意があり、市をよくしたいという思いがありますが、やはり若い人は、自治会費を払ってまで自治会に入る意味があるのか、また、自治会はそもそも何をするのか、自治会費はどのように使われているのかというのがわからないので、見えるようにする必要はあるなと思いました。</p> <p>また、市民集會に参加して、自分が出した意見が地域で採用されれば、ああ、自分もまちづくりに協力できたな、意見を言うことは楽しいなという思いが芽生えてくれば、どんどん一緒にまちづくりができるようになるのかなと思います。さらに茅ヶ崎市はNPO団体が非常に多くて、その支援なども行政が行っていますが、市民活動の支援もさらに厚くしていけば、協働という部分は、もっとよくなるのかなと思いました。</p>		
<p>【若者のボランティア等の参加機会</p>		

【**共助・公助**について】

私はボランティアの関係で、茅ヶ崎市に住んでいるボランティア団体の方と、関わる機会が多いのですが、そこで感じたのが、若者よりもお年寄りのNPO団体などの方の動きが活発だなという印象をととても受けています。そういった元気のあるお年寄りなどと私はたまたま、そのボランティアの関係で関わる機会が多く、色々と刺激をいただいたり、その地域を知る機会もいただいたりしますが、実際にそういった関わりがないと、若者と、そういった元気のある活発なお年寄りの方と関わったり、地域を知る機会というのはなかなか持てないと思います。そのため、何か町を挙げて、学生と、そういった地域の方が関わる機会があると、私も県外出身ですが、その関わりがあったからこそ、その地域のことを知れて、こちらで就職ということにもなったので、そういった機会をつくれれば、町に、また新しい若者が入ってくる機会のきっかけづくりになるのかなと感じました。

こういった、学校で参加するという機会がないと、自主的に参加するのはなかなか難しいと思うので、ボランティア団体であれば、大学内の参加している人が参加しやすいような形に声をかけたりすれば、興味のある人は絶対参加すると思います。

ただ、町からホームページなどで全体的に声をかけるだけではなく、大学のそういった活動をしている学生にピンポイントに声をかけてみるとおそらく新しくパイプができたりするのかなとは思っています。

【**安心して子育てできる政策について**】**公助**

私は女性なので、主婦になった気持ちで考えたのですが、寒川町人口ビジョンの目標人口を達成するための転入等による人口減少の改善のところは、核家族などを獲得するためのものだと思ったのですが、出生率の上昇は結構ピンポイントだなと思ったのですが、例えば親子3人で越えてきて、安心して2人目を授かるような政策や手当などは寒川町さんではありますか。

国では働き方改革や女性の力をもっと出していこうという動きがあり、その動きは、寒川にすごく顕著にあらわれていますが、やはりそのためには、先程もお話がありましたが、保育環境です。町には、放課後、親が働いている場合は、親が帰ってくるまでの間、小学生が安心して過ごせるようにと児童クラブがあります。以前は保護者の方が指導者として交代で子ども達の面倒を見ていたのですが、お母さん自身も働くということや、法も整備されました。

また、町内では新たにNPO法人が立ち上がり支援員を雇用し子どもたちの面倒をみて、保育環境を充実していきます。お母さんたちには働く機会が与えられますが、預かるには経費がかかるので保育料を負担していただき進めております。保護者、特にお母さんたちが交代で子どもたちの面倒を見ることは、私は寒川の一つの特色で寒川らしいなと思ったのですが、やはり働く必要性があるという部分では、支援をせざるを得ないのかなと思ひ、現状の形に切りかえてはい

【**子育て支援課 子ども家庭担当**】

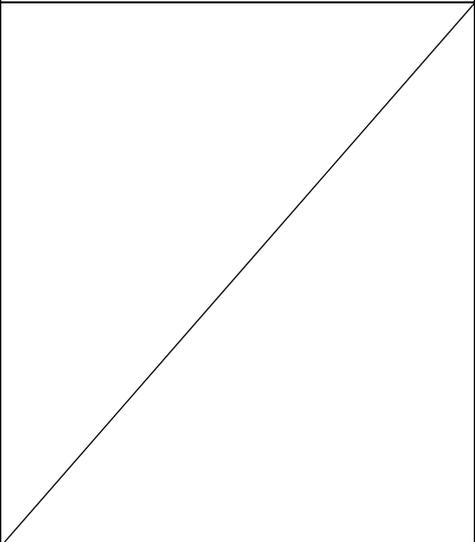
子育てに不安や悩みを抱える母親達に対し、身近で気軽に利用できる支援拠点として子育て支援センターがあり、保育所、幼稚園等の施設や地域の子育て情報を集約し、利用相談に対し情報提供を行う利用者支援事業を行っております。

ファミリー・サポート・センター事業では「育児の支援を受けたい人」と「育児の支援を行いたい人」からなる会員組織で会員同士が地域で進める相互援助活動の支援を図っております。

平成29年度からは、小児医療費助成事業について中学3年生（1歳以上所得制限あり）まで対象としております。また、子育て支援課内に子育て世代包括センターを設置し、妊娠届出時から出産・子育ての時期も含め、早期に相談対応ができる体制をとっております。

【**保育・青少年課 保育担当**】

平成29年10月には寒川町初の家庭的保育事業が開所されました。

	<p>ます。</p> <p>出生率は、今は1.6ぐらいで、県内でも高いほうにあります。それでも、2以上いかなければとも増えません。この2.07というのも、かなりきつい目標値ですが、そのためには、ここの2人目、あるいはその次の子を産める環境については、ある程度所得の部分もあります。それは当然ながら、行政だけではなく企業、あるいは国策として、その辺も上げていかなくてはいけないと思います。</p> <p>ただ、町としてできることは子どもの受け入れです。次の子ができて、まだ小さく上の子を見られない場合は、子育ての保育スペースの確保やファミリー・サポート・センターという所もありますが、そこでは一時預かり的なこともやってくれる部分もあります。寒川だからできる細かい保育環境、そういったものも今つくってやっています。</p> <p>ただ、やはり、だんだん新しい人が増えてくると、その需要も非常に高まってきているので、いずれはその辺も今の保育園をもっと広げる部分もありますが、認定こども園ができることもあって、若干、間口が広がってきたなという部分もありますので、ぜひ、この2.07に極力近づきたいなと思っています。</p> <p>やはり子育ては、保育の場と働く場が近いところであれば、一番いいなと思っていますので、そういった部分では、先ほどオーケストアの話もしましたし、新たな商業施設もできている部分で、非常に町内でも雇用の場というのは結構増えてはいます。そういう場をどんどん活用していただいて、出生率の上昇に寄与してもらえればなと思っています。</p>	<p>また平成30年4月には認定こども園が開園予定です。</p> <p>その後、こちらも寒川町初の小規模保育事業が開所予定です。</p> <p>保育環境を整備し、安心してお子さんを預かることができる環境を整えているところです。</p>
<p>【町長への手紙について】 公助</p> <p>先程ホームページを拝見したのですが、そのときに「私の提案」、町長へのメッセージという欄があって、そこでは今日のように顔を合わせて意見を言わなくても、ネットなどで自分が思っていることを伝えて、町長さんから返事をもらえるということだったので、それは自分もまちづくりに参加できていいなと思いました。それについて、皆さんから意見の中で、採用される基準がわからないと、思いがあっても、実際に通るのかなと思ひ、結局思っただけで言わないという方もおそろしくいらっしゃると思うので、どういう基準で採用されるのかが気になりました。</p>	<p>町長への手紙は、文書あるいはメールでいただきますが、中には匿名もありますが、大半は、お名前、年齢、住所は示していただいています。</p> <p>また、匿名以外いただいた意見については全てお答えしており、広報あるいはホームページの中で意見も、載せております。なので、意見を出していない方でも見ることができるシステムになっています。</p> <p>受け付けないものは一切なく、全て受理しています。回答をするにあたり、私だけで答えるのではなく、担当課に全部1回戻し、担当課の意見をつけて、最終的に私が確認して、お答えを相手に渡しています。</p>	

3. その他

参加者	町長	懇談後の経過・結果等確認事項
	<p>(司会)</p> <p>梅村ゼミのみなさんの中で今、寒川に住んでいる方はいらっしゃらないと聞いていますが、寒川はこんな感じ</p>	

	<p>かなというイメージを聞かせてください。</p>	
<p>【寒川町のイメージについて】 僕の寒川町のイメージは、年末年始に寒川神社へお参りに行ったり、大学に車で通うときに、寒川のインターを使ったりすることです。</p>	<p>寒川は、湘南の茅ヶ崎、平塚、藤沢、湘南海岸と隣接していますが、特に県外の方に「寒川町わかりますか」と言うと、なかなかわかる人は少ないです。</p>	
<p>部活などで結構、寒川町に行きませんが、公共施設がきれいだったり、最近では駅前に新しい建物ができたりしていて、結構きれいな町だなという印象はあります。</p>	<p>しかし、「寒川神社わかりますか」と言ったら、大体わかるので、寒川は寒川神社のある町だと認識されています。</p>	
	<p>ただ、一度寒川に来て頂くと、コンパクトで地形が平坦で、高い建物も限られているため、非常に空が広いと感じられます。</p> <p>また、やはり一番よく聞くのは、空気がおいしいということ。特に東海道線から相模線に乗り換え、香川を過ぎて寒川に入ると一気に自然の空気に触れられるという部分で、自然との触れ合いが非常に多く、大きな影響を持っています。端的な言葉で言うと、田舎っぽいという言葉で、よく町民の方は自分たちを消極的に評価しますが、私は逆に、自然が豊かだという思いを持っています。</p> <p>また、寒川は、駅を中心に市街地構成をしている茅ヶ崎などの近隣市とは違い、町全体に市街化区域もありますが、その中を縫うように調整区域が入っています。寒川のそういう土地利用構成が、建物が建て込んでいる状況を生まない一つのやり方で、今までの時代の形成の中で来た寒川の特徴だと思っています。農地や田畑の自然が多く、山らしい山もなく、緑地帯も非常に少ないですが、町全体が、ある意味公園的なイメージも私は持っているの、公園のイメージのまちづくりをしたいと思っています。</p> <p>市街地は当然、環境づくりが大変で、きれいなまちづくりをしていくには色合いが大事で、建物の色合いも、どぎつい原色は控えてもらうという形で、落ち着きを持たせています。寒川神社があるというイメージもあると思いますが、やはり、そういった部分の文化と歴史があると町民の方にはおそらく、認識はされているのかと思っています。そういった部分では、奇抜な建物もそうないし、看板も規制をするほど問題となっているものもありません。</p> <p>そういう中で、寒川駅の区画整理も現地の工事が終わり、町並み形成が徐々にできつつあります。古い建物が建てかえられるということもあって、意外と新しい建物が多いというイメージがあると思うが、寒川は今、時代の転換期にあるのかと思っています。</p> <p>また、この資料の表紙にもありますが、さがみ縦貫道路、圏央道の一環ですが、寒川に2カ所のインターチェンジができたことから、寒川にお見えになる車や人の流れができた。さらに、寒川は事業所が非常に多い関係で、や</p>	

はり交流人口が今、非常に増えてい
ます。その中で、交流人口の方達が定住
人口になり、いかに移り住んでもら
うかというのはありますが、それはそう
簡単にはいきません。

ただ、いずれは住みやすさというも
のも、これからもっとPRしなくては
いけないのかと思っています。あまり
派手な部分はないですが、寒川に入
ると時間がゆったりと流れるというこ
とは、ある意味、寒川らしさかと思っ
ています。目に見えて特徴のあるもの
は寒川神社や川、あるいは意外と寒川
はお花の生産者が多いので、「花の
町・寒川」ということで、北インター
の降り口のところにも看板は出てい
ますが、今ある産業をもっとPRして
いこうと思います。

新しいものをつくるのではなくて、
文化なり歴史なり埋もれかかっている
ものを、もっと引っ張り上げたい、
ある意味プロモーションしたいと思
います。そういう中で、こんな町がよ
いのではないですかという若い皆さ
んの意見をいただければなと思っ
ていますので、よろしくお願いいたしま
す。